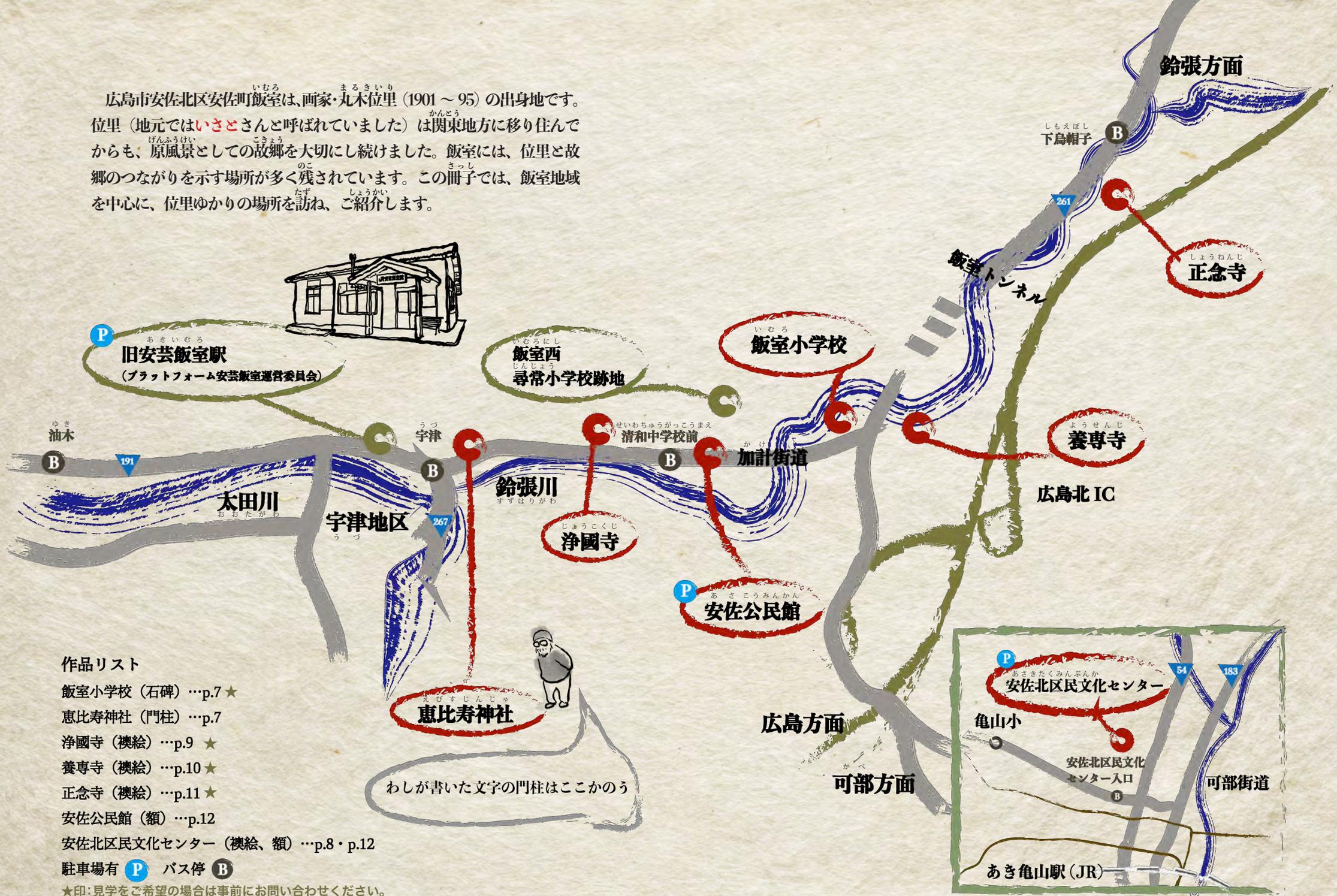


丸木位里の
足跡を訪ねる



広島市安佐北区安佐町飯室は、画家・丸木位里（1901～95）の出身地です。位里（地元ではいさとさんと呼ばれていました）は関東地方に移り住んでからも、原風景としての故郷を大切にしました。飯室には、位里と故郷のつながりを示す場所が多く残されています。この冊子では、飯室地域を中心に、位里ゆかりの場所を訪ね、ご紹介いたします。



作品リスト

- 飯室小学校（石碑）…p.7 ★
- 恵比寿神社（門柱）…p.7
- 浄國寺（襖絵）…p.9 ★
- 養専寺（襖絵）…p.10 ★
- 正念寺（襖絵）…p.11 ★
- 安佐公民館（額）…p.12
- 安佐北区民文化センター（襖絵、額）…p.8・p.12

駐車場有 **P** バス停 **B**

★印：見学をご希望の場合は事前にお問い合わせください。

飯室に生まれた位里は、画家を目指して21歳で上京したあと東京を中心に活動しますが、生涯を通して飯室と関わり制作を続けました。飯室にはいくつもの彼の作品が残されています。時代に沿って、飯室と位里のつながりを見ていきましょう。

- 0歳 1901 飯室村に生まれる
- 6歳 1908 飯室西尋常小学校に入学
いむろにしじんじょうしょうがっこう
- 22歳 1923 恵比寿神社の石柱に文字を書く
えびすじんじや せきちゆう
- 24歳 1926 浄國寺に《雪松図》、《梅図》の襖絵を描く(のちに屏風装)
じょうこくじ けきまつず うめず ふすまえ びょうぶそう
- 40歳 1941 赤松俊子(のちの丸木俊)と結婚
あかまつとしこ とし
- 44歳 1945 原爆投下を聞きつけ、広島に帰る(ひと月ほど滞在)
げんぱくとうか たいざい
- 48歳 1950 《原爆の図》第一部「幽霊」を発表
げんぱく ず ゆうれい
- 65歳 1967 東松山市に原爆の図 丸木美術館を開く
ひがしまつやまし
- 74歳 1975 養専寺に《松竹梅図》の襖絵を描く
ようせんじ しょうちくばいず
- 74歳 1975 母校である飯室小学校の百年祭のために「誠心」の書を贈る
せいしん おく
- 82歳 1983 安佐北区民文化センターで「地元芸術家絵画・彫刻展」に26点出品
あさのくわく ちもとげいじゆつかいが ちやうこくてん
オープニングセレモニーで同センター和室の襖に《松竹梅図》を描く
- 90歳 1991 浄國寺に《龍虎図》、《天女図》の襖絵を描く(俊と共作)
じょうこくじ てんによず
- 91歳 1992 正念寺に《天女図》の襖絵を描く(俊と共作)
しょうねんじ
- 94歳 1995 脳梗塞のため死去
のうこうそく



飯室出身の画家・丸木位里の評価は、日本だけに留まりません。赤松俊子(丸木俊)と共同で制作した《原爆の図》は、国内のみならず世界各国で巡回展示を行ってきました。

1953年に《原爆の図》5部作が世界平和文化賞ゴールデン・メダルを受賞したことをきっかけとして、デンマーク、ハンガリー、ルーマニア、中国を巡回し、1956・57年には中国、モンゴル、ソ連、ドイツ、南アフリカ、オーストラリアなど世界12ヶ国での巡回展示が催されています。1970・71年にはニューヨークをはじめ、アメリカの8会場を《原爆の図》8部作が巡回するという大規模な企画が実現しました。また、近年では2005年に北京・中国美術館展、2015年にアメリカの3会場を巡る米国巡回展が開催されています。

これらの世界巡回展示は、丸木位里・俊の作品に対する世界的な評価へとつながりました。

背景画像：丸木位里《森山を見る》色紙、1941年(個人蔵)
参考文献：「丸木位里 年譜」「墨は流すもの—丸木位里の宇宙—」、丸木位里展実行委員会、2020年

参考文献：岡村幸宣『《原爆の図》全国巡回 占領下、100万人が観た!』新宿書房、2015年
『墨は流すもの—丸木位里の宇宙—』、丸木位里展実行委員会、2020年

「とにかくわたしの少年時代には、川に関係する印象が非常に多い。」

太田川の上流で暮らしていた丸木家には、様々な水にまつわるエピソードがあります。

丸木家は船宿兼旅館を営み、日常でも炊事のたびに水汲みに行ったそうです。

大人の背丈よりも深かったとされる太田川では大雨による氾濫がよく起こりました。しかし、濁流の中で位里は急流に飛び込んで向こう岸まで泳いでしまうこともありました。



洪水がおさまると岩そばにたまった鮎や鰻、ムツギなどを捕っていたそうです。大漁のあとはご近所さんも集まって丸木家が宴会の場になったとか。

小正月には、丸木家のあった油木から宇津の浜に下ってどんぶ焼きをしたそうです。ここで位里兄弟は字の上達を書初めに託していました。



位里の作品には川や滝などのみずみずしいモチーフが多く登場します。この原風景が飯室の雄大な太田川だと考えると彼ののびやかな筆づかいにうなづけますね。

おすすめの本



へくそ花も花盛り
大道あや聞き書き一代記とその絵の世界
大道あや 語り・画 福音館書店 2004年【中学生から】

位里の妹である大道あやさんの言葉を3年かけて記録し、明治から平成を生きた彼女の一代記をつづった本です。
原爆、大切な人との別れ、画家「大道あや」の誕生など波乱万丈な人生ですが、あやさんは縁側の立ち話のようにいつもとくくと語ります。普段着が着物で太田川の魚捕りが放課後の楽しみだった時代、飯室にはどんな人々が暮らしていたのでしょうか。あやさんのあたたかな絵と軽快で流ちょうな広島弁に癒されながら、私たちの知らない飯室へタイムスリップしてみませんか。

参考文献：丸木位里『丸木位里画文集 流々遍歴』岩波書店、1988年、16頁（冒頭引用部分）
大道あや『へくそ花も花盛り 大道あや聞き書き一代記とその絵の世界』福音館書店、2004年

画家である位里は書も達筆で、飯室にはその形跡が残っています。

石碑「誠心」

現在の広島市立飯室小学校は、位里の母校です。飯室小学校の百年祭（1975年）のときに位里は、「この小学校を出た人間でいちばん偉いのはお前さんだ」と言われ、大きな石に彫るための字を書いてくれと頼まれたそうで、「誠心」という字を書きました。はじめは「革命」という字を書くつもりでしたが、止められたといいます。位里は当初、自分の名前の字を書くのが嫌だったそうで、石碑の後ろに位里の書であることを誰かが書いておけばよいと言っていました。しかし、強く依頼されたことから、最終的には石碑にも「丸木位里書」という自身の字が刻まれています。飯室小学校には基になった書が掛軸にして飾られています。



▲石碑「誠心」（広島市立飯室小学校）



▲恵比寿神社門柱

恵比寿神社の門柱

能筆家の位里は、若い頃よく遊びに行ったという飯室の石屋から「お宮の前の大きな石の門に大きな字を書いてくれ」と頼まれたそうです。今回の調査を通して、恵比寿神社にある門柱の字が位里の書と推定されました。恵比寿神社の柵には位里の父である丸木金助の名前もあり、神社に寄進したことがわかります。

位里の叔父も達者な字を書いたといいます。叔父は位里の若い頃に亡くなっていますが、彼が長く生きていれば人生も少しは変わっていたかもしれないと自身で言っていることから、書家としての道もあったのかもしれない。

取材協力：広島市立飯室小学校
参考文献：丸木位里『丸木位里画文集 流々遍歴』岩波書店、1988年、15頁。平松利昭編『閃きの芸術・流々人生 丸木位里・俊の遺言』樹芸書房、2002年、32頁。

22歳

74歳



水墨画に挑戦しよう

位里さんの真似をして描いてみました

「水墨画って、難しいの？」
「位里さんって、本当にすごいの？」
…と思った方、
一緒に水墨画に挑戦しましょう！
習字道具と刷毛があれば
できるんです！！

はけりょうはし
刷毛の両端に
濃い墨を付けると
竹らしさがでるぞ



基本編



かすれを出すのは意外と難しい…
描いてみると位里さんのすごさが
よくわかります

初めてには竹がぴったり！
刷毛をぐっと押し当てると節が描けるよ。



水で薄めると、墨の濃さが変わるよ。
自分なりににじみの出し方を探して
みるとおもしろいかも

ドーサ引き

ドーサとは **にかわ** と **ミョウバン** を混ぜて溶かしたもの*。
これを紙に塗ることで、**墨のにじみを止める**ことができます。

《断面模式図》



小学校などで習字をするときによく使われる「半紙」は、元々
にじみにくいように製紙されているので文字をはっきりと書
くことができますね。位里さんは和紙に「ドーサ引き」をして、
絶妙なにじみをコントロールしています。

*市販のドーサ液もあります。

応用編

ドーサは作品の
仕上がりに大きく
関わってくるんじゃ



ドーサ引きなし



ドーサ引きをしていないと
墨がすーっと広がっちゃう

ドーサ引きあり



ドーサ引きをすると
絵の輪郭線がくっきりした！

プロジェクト紹介

本プロジェクトは、広島大学と地域が連携し、地域
社会が直面する課題の解決や地域の活性化を目指す
「地域の元気応援プロジェクト」として行われました。
「原爆の図」で知られる画家・丸木位里と故郷飯室
との関係をまとめ、飯室地域の価値を再認識・発信
することを目的としています。

プラットフォーム安芸飯室運営委員会

廃線になった旧可部線の安芸飯室駅を改修した
「駅舎カフェ Romui」を拠点に、飯室地域活性化の
ための活動を行っている団体です。原爆の日に関
わらせて丸木位里展を開催するなど、丸木位里を地域
に伝えるための活動を以前から行っており、本プロ
ジェクトを協働進行了ました。

調査内容

飯室に残っている丸木位里の作品やゆかりの場所な
どの現地調査や、生前の丸木位里と面識のある方へ
のインタビュー調査、文献調査などを行い、丸木位
里とその故郷である飯室との関係について調べまし
た。調査の過程で、飯室に住む様々な方にご協力を
いただきました。

成果発表

調査して分かったことをパネルにまとめ、2021年
12月18日から27日まで安佐公民館で展示しまし
た。展示初日には、原爆の図 丸木美術館の学芸員・
専務理事の岡村幸宣さんをお招きし、位
里とその故郷飯室との関係について、さ
らに詳しいお話をさせていただきました。



講演会、展示の様子はこちらから▲



丸木位里の 足跡を訪ねる

2022年2月28日印刷

執筆・編集 広島大学教育学部造形芸術系コース有志
表紙、裏表紙、挿画、p.8, p.11, p.12 : 森川美優、マップ、p.6, p.10 :
堀部美有、p.4, 水墨画に挑戦しよう : 小田彩恵子、p.5 : 火村遥、
p.7, p.9, プロジェクト紹介 : 江村健真、p.13 : 野本絵理奈、監修 :
多田羅多起子

この冊子は令和3年度広島大学地域の元気応援
プロジェクト採択事業「丸木位里と故郷・飯室
マップ作成、作品調査プロジェクト」の一環と
して作成したものです。



地域の元気応援プロジェクトについてはこちらから▲